

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 ICLAS分科会 更新日 2012/6/8  
(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際実験動物学会議

(欧文) International Council for Laboratory Animal Science

(略称) ICLAS

日本学術会議加入年(西暦) 1976 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) ICLAS General Assembly and Governing Board

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	<u>Patri Vergara</u>		<u>Naoko Kagiya</u>	<u>Harry Rozmiarek</u>
(国)	<u>スペイン</u>		<u>日本</u>	<u>アメリカ</u>

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

4年に1回開催される総会時に選出された理事の直接選挙によって会長、事務局長そして会計担当理事を選出する。副会長は理事の互選によって選出し、総会で承認される。

加入国・地域の数 32 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

日本、中国、韓国、タイ、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、フランス、スペイン、イタリア、

国際学術団体のホームページURL

<http://www.iclas.org/>

国際学術団体の年間運営経費

EUR53,751

日本の分担予定額[事務局で記入]

364千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2011	東地中海実験動物学 会議	イスタンブール(トル コ)	200人	6人	無
2010	AFLAS-ICLAS会議	台北(台湾)	400人	70人	無
2009	ICLAS,FESSACAL,AC CMAL地域会議	モンテヴィデオ(ウル グアイ)	300人	2人	無
2008	Scand-ICLASシンポ ジウム	タルツ(エストニア)	200人	1人	無
2007	FELASA-ICLAS会議	コモ(イタリア)	1000人	4人	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2011	ICLAS総会	イスタンブール(トル コ)	17	玉置 憲一	1
2010	ICLAS理事会	台北(台湾)	11	玉置 憲一	0
2009	ICLAS理事会	モンテビデオ(ウルグ アイ)	9	玉置 憲一	0
2008	ICLAS理事会	タルツ(エストニア)	10	鍵山 直子	0
2007	ICLAS総会	コモ(イタリア)	22	玉置 憲一	0

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

- ・ ICLASニュース：不定期(年間約10回配信)
- ・ ICLAS Web Page
- ・ 実験動物ニュースによる国内周知(日本実験動物学会の季刊誌)
- ・ LABIO 21による国内周知(日本実験動物協会の季刊誌)

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日本学術会議ガイドラインの国際認知活動: Best Practices in Physiological Research: Ethics and Integrity – SCJ Guidelines for Proper Conduct of Animals Experiments (IUPS Symposium in Kyoto, 2009)</li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実験動物のcare and useに関する国際ハーモナイゼーション (Science, 312, 700–701, 2006) .</li><li>・南東ヨーロッパにおける実験動物のcare and useの普及におけるICLASの関係 (Arch., Biol., Sci., 60 (2), 175–179, 2008) .</li><li>・International harmonization of guidance on the ethical review of proposals for the use of animals, and on the education and training of animal users in science.</li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ICLAS Animal Quality Network:実験動物の品質向上ネットワーク、およびPerformance Evaluation Program for Diagnostic Laboratories:検査実施機関の自己点検評価システムの樹立</li><li>・Towards International Guidance Concerning the Production, Care and Use of Genetically Altered animals : 遺伝子改変動物の生産と飼養等に関する国際ガイド</li><li>・Signature of the ICLAS-OIE Agreement on May 27, 2008, in Paris</li><li>・Collaboration with CIOMS for revising the 1985 CIOMS International Guiding Principles for Biomedical Resaech involving Animals</li></ul>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>ICLASは実験動物の適正利用のために活動する唯一の国際機構であり、過去20年間、日本は国際的に強い影響力を発揮してきた。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカに対し、地域のニーズに根ざした、科学的合理性のある動物実験倫理の国際ハーモナイゼーションに取り組んでいる。</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発展途上国や地域で開催される国際会議への開催費補助と理事を含む講師の派遣</li><li>・アジアや中南米への実験動物の品質管理に係る技術支援</li></ul>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>動物実験の科学的・倫理的適正化は国内外における喫緊の課題であり、国際ハーモナイゼーションの観点から日本学術会議ICLAS分科会の役割は多大である。</p>
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
日本学術会議代表	篠田 義一	2012	2015
副会長	鍵山 直子	2011	2015
副会長	玉置 憲一	2003	2011
理事	鍵山 直子	2007	2011
理事	伊藤 豊志雄	2003	2007
理事	森脇 和郎	1999	2007

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 ICLAS分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本学術会議はわが国を代表する唯一のNational Memberである。Scientific Memberとして日本実験動物学会および日本実験動物協会が加盟し、それぞれ、動物実験研究者および実験動物生産者を指導・啓発している。

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本実験動物学会	1,400名	<a href="http://www.soc.nii.ac.jp/jalas/">http://www.soc.nii.ac.jp/jalas/</a>
日本実験動物協会	93法人	<a href="http://www.nichidokyo.or.jp/">http://www.nichidokyo.or.jp/</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名  
所属分野別委員会

ICLAS分科会  
基礎医学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
渡辺 守	篠田 義一	鍵山直子	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	4	2

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- ・日本の動物実験の法規制の実態を紹介するために、これまで日本学術会議が国内の実験動物や動物実験の法や実施体制の整備に果たしてきた役割を継承する。
- ・実験動物科学や動物愛護活動に関するICLASの対応窓口だけでなく、国際的な情報発信窓口となる。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/5/30	1. 委員長、副委員長、幹事の選出 2. ICLAS日本代表の選出 3. ICLASの活動の現状報告
2010/3/10	1. 1月の提案による実験動物分科会との合同会議が開催された 2. 学術会議ガイドライン策定以降の第三者評価システム進捗状況の報告 3. ICLASの紹介
2010/1/7	1. ICLAS活動報告 2. 実験動物としてのサル類の日本の現状把握 3. ICLAS分科会と実験動物分科会との合同会議提案
2009/5/13	1. 委員長、副委員長、幹事の選出 2. 分科会活動方針について 3. 2009年ICLAS理事会への対応

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

実験動物科学に関する唯一の国際組織としてのICLASについては、日本実験動物学会と日本実験動物協会がScientific memberとなっており、関係者には十分周知されているものと考えられる。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

分科会の委員がICLASおよび日本実験動物協会の役員に就任しており、国内学協会の意見を国際的にも反映できる状況にあり、現にICLAS理事会において日本の状況を報告している。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

ICLAS等国际協調の成果として、「動物の愛護と管理に関する法律」の改正(2005)ならびに日本学術会議による「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」(2006)の発出に貢献した。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

これまで、本分科会が中心になり、日本の実験動物や動物実験の在り方に関する複数の提言、基本指針の策定等に係わっており、十分にその任を果たしてきたものと考えられる。また、他の関連分科会との連絡を密にとりながら、先の日本学術会議のガイドラインの策定を実現した。